

五月十二日

朝屋上菜園に上る。変わりなし。サマーレタスが大分大きく育っていた。今年は収穫できるか。今日はスタッフにCEMAのオペレーション。十一時半研究室ミーティング。モスクワ、東京、北京、それぞれのプロジェクトの概要説明。十二時過竹内ラウンジで中川武先生、山田脩二と会う。山田さんは既に酒が入り御機嫌であった。十三時過教室会議。十五時半まで。その後打ち合わせ。小さい物件程打ち合わせが綿密にならざるを得ないのが仲々に辛い。MSP社長野口氏と連絡。他。二〇時山田修二と新大久保駅前近江屋で会食。二十一時迄。山田氏相変わらずだが、流石に少し計り弱くなったに見受けた。仙川泊りの山田氏と京王線烏山で別れ、二十二時世田谷村に帰る。

五月十三日

昨日は山田さんにすっかり、生活のリズムを狂わされてしまったが、時には良いものだ。しかし、彼のように生身をさらして生きてゆくには仲々に困難な時代になっている。カメラマンからカラマンになって淡路に去った時が今のところは山田さんの時分の華だったろう。時分の華を続けることは不可能な事だ。早く炭焼きになって、枯れた華になってゆく姿をエレガントに社会にさらすしかないだろう。六十六才になった山田脩二と久し振りに再会した印象だ。私だって、世田谷村の百姓の真似事生活をネットにさらして生きてゆくスタイルに変えているんだから。しかし、山

田さんの困難さはそのまま私の困難さにもつながるところがあるので、山田脩二を視ていると少々歪んだ鏡に写った自分を見ている風があつて、仲々に寂しいものだ。

七時起床して、メモを記し、今日の院レクチャーの準備。南泰裕さんから送っていた「プリコラージユの伝言」アートン社、読む。南さんには数度お目にかかった事があるんだけど、感情や情熱を抑制して生きている人だなと言う印象が強かった。この本は、その抑制の内側が時に露出して面白かった。著者と一度でもお目にかかり、言葉を交わした経験があると、それだけでその本は別の読み方ができてしまうものようだ。

十時研究室。大学院レクチャー準備。十時四〇分より十二時迄レクチャー。サントリーニ、ル・コルビュジエ、ロンシャン、ラトゥーレット、ドイツ表現主義を巡つて。ハンス・シャルーンとコルブを並立させて論じた。建築デザインは広大な世界から産みだされていたという話である。十三時半エドカ工業。ビニール製レンズの説明を聞く。十五時前昼食。冷やし納豆ソバ。

幾つかの打ち合わせを終え、十八時近江屋で若松氏と夕食。何がしかのビジネスモデルの相談。十九時半修了。二〇時前研究室に戻り、台北李祖原と連絡。来週の北京行の相談。CEMA打ち合わせ、二十二時迄。MAZDA自動車 Moskva の話しもうまく行けばよいのだが、MAZDAヨーロッパの情報を聞くに、ロシアの自動車ビジネス、オイルビジネス共に大変な活況の様で、中国よりは信用できる市場のようだ。高度経済急成長の地域にビジネスチャンスが多発するという常識に最近身は身につまされ続けているが、人間の品格はそれにゆり動かされても、流されぬところに在る事は忘れまい。私に金もつけが出来るわけもなし。もともと金に興味も余りにも無さ過ぎるのが、傷なんだから。輪廻転生来

世に生まれ変わったら一度は金の亡者になってみるのも良いな。